

4. 園の統合について

(1) 統合した場合のメリットとデメリット

メリット (利点)	デメリット (欠点)
<ul style="list-style-type: none"> ・集中配置による保育士の不足解消 ・クラス人数の増による保育(幼児教育)の充実 ・園舎の更新による未満児設備の充実 ・保育士、調理員の労働環境改善 ・園舎更新費用や運営費用の削減 ・予算の集中投入による保育環境の充実と子どもの体験の充実 ・施設の安全安心対策の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・通園の利便性の減少 ・保護者の送迎負担の増加 ・歴史ある保育園が地域からなくなる ・地域の自然環境を活用した保育が減少する可能性 ・クラス人数の増による保育士の負担の増大 ・異年齢交流の減少 ・地域コミュニティの希薄化

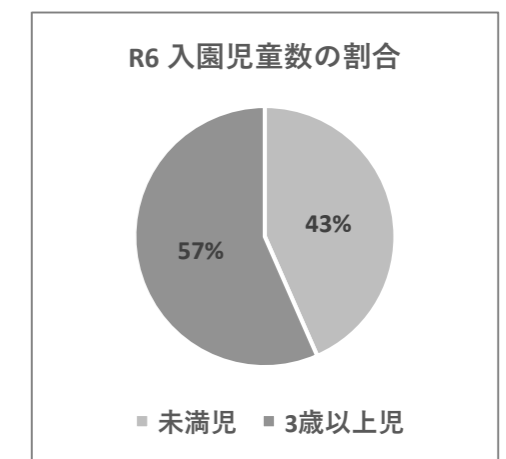
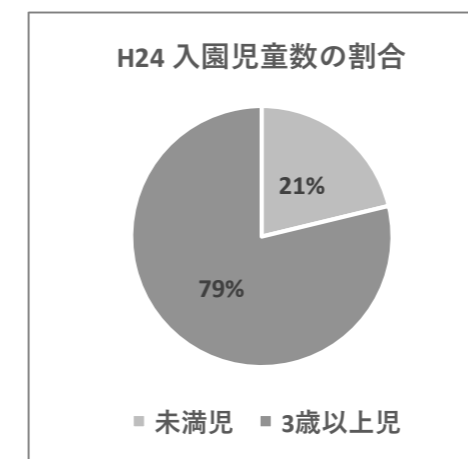
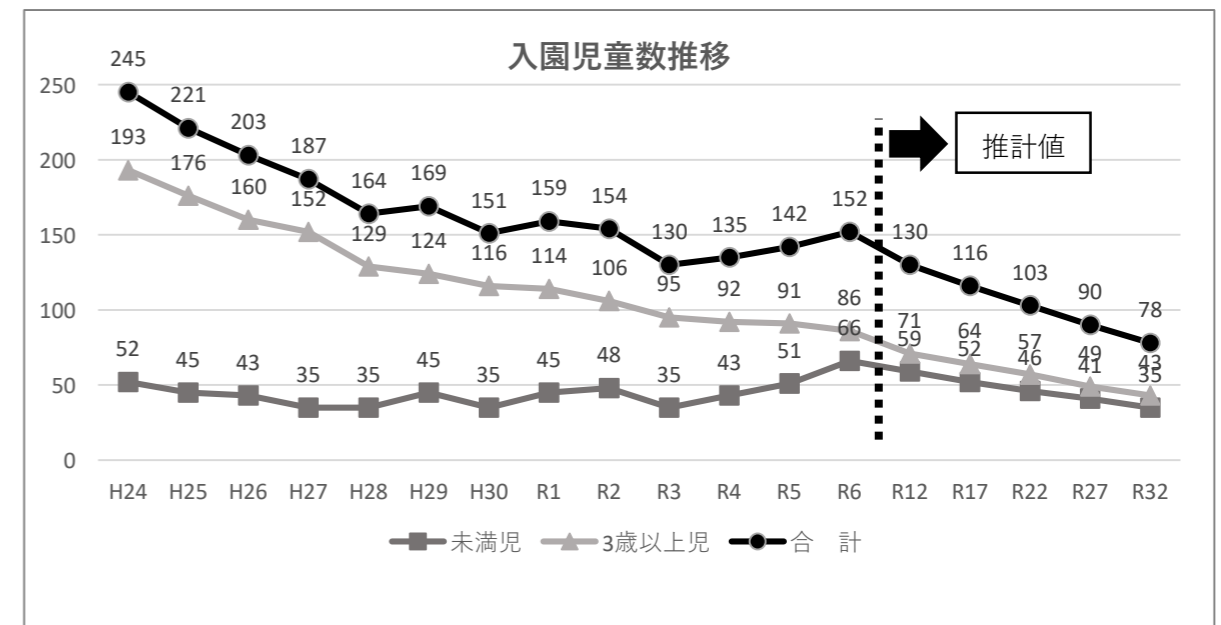
保育環境に関する住民意識調査

参考資料

信濃町教育委員会から「信濃町保育環境あり方検討委員会」に提示した資料とともに、保育環境における現状と委員の皆様から出された課題の概要を以下に記載しています。「信濃町保育環境あり方検討委員会」では、今後の保育環境をどのようにしていけばよいか、様々なご意見をいただき、検討を進めていこうと考えています。

1. 入園児童数について

(1) 現状と将来推計



※未満児：0歳（生後6ヶ月以上）～2歳児まで、3歳以上児：3～5歳児まで

- ・入園児童数は、平成24年から12年後の令和6年で93人（約4割）が減少し、少子化が進んでいる
- ・今後も入園児童数の減少が続き、25年後の令和32年には78人で半減する見込
- ・入園児童数の未満児（0～2歳児）の割合が平成24年から倍増（21%⇒43%）
- ・未満児を受け入れるための保育士の確保と設備を整える必要がある

（2）各保育園の園児数（令和7年4月1日現在）

（ ）は、利用定員

野 尻		柏 原		古 間		富士里	
未満児	3歳以上児	未満児	3歳以上児	未満児	3歳以上児	未満児	3歳以上児
6人 (6人)	10人 (30人)	22人 (30人)	45人 (80人)	22人 (22人)	20人 (60人)	12人 (12人)	14人 (40人)
1クラス	1クラス	3クラス	3クラス	3クラス	2クラス	1クラス	1クラス

- ・未満児は、柏原以外で利用定員に達している（柏原も0歳は定員に達している）
- ・年度途中では、未満児の空きがほぼないため入園が難しい（問い合わせでは、お断りしている状況）

2. 保育人材について

（1）保育人材の不足

保育士の配置基準（保育士1人でみることのできる子どもの人数）

乳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
3人	6人	6人	15人	25人	25人

- ・就労形態の変化により、育休終了後の1歳までの間で就業・復帰する保護者が増えている
- ・保育士1人でみることのできる子どもの人数が少ない未満児（特に0,1歳）の保育需要が高まり、保育士が不足
- ・保育士の人材不足は全国的な問題で、募集をしても簡単には雇用に繋がらない
- ・令和6年度は、1歳児で4人の待機児童が発生
- ・保育士を集中して配置できると、不足は改善される
- ・4園の給食の調理員にあっても募集をしても簡単には雇用に繋がらない

（2）保育人材の確保と育成

- ・働きやすい職場環境を整えることで、さらに働き続けたい職場づくりが必要
- ・小規模園では、保育士育成に繋がるチーム保育の難しさがある

3. 保育施設について

（1）園舎の概要

保育園	野 尻	柏 原	古 間	富士里
構造	木造	R C造	R C造	木造
建築年	昭和46年	昭和58年	平成3年	昭和48年
経過年数 (耐用年数)	53年 (22年)	42年 (47年)	33年 (47年)	51年 (22年)

※R C：鉄筋コンクリート

※経過年数は令和6年度末現在

※耐用年数：税法上の減価償却期間。耐震性や安全性の観点から即危険という物理的な寿命ではないが、老朽化の目安とされており、建て替えや改修を検討する時期と考えることができる。

- ・各保育園は老朽化が進んでおり、特に野尻、富士里保育園は耐用年数を大幅に超えている
- ・施設の更新を考えていかなければならない時期に来ている

（2）改修費用試算

保育園	野 尻	柏 原	古 間	富士里
延べ床面積	385.37 m ²	1,082.67 m ²	902.64 m ²	530.63 m ²
改修費用	1億840万円	3億470万円	2億5,400万円	1億4,930万円

<費用算定条件>

- ・現状の園を躯体を残し大規模改修すると想定
- ・費用は、独立行政法人 福祉医療機構が公表している保育所建設費の全国平均単価（402千円/m²）の7割で算定

- ・今後、現状の園を改修とした場合、多額の費用が見込まれる
- ・野尻、富士里保育園は、すでに建築後51年以上が経過し、改修費用に見合った長寿命化にならないことが心配される
- ・入園児童数の推移から、そのまま改修し長寿命化を行えば将来的には過剰な施設投資となる（現在の4園の利用定員の合計は、280人）